

被災したら、どう動く？

防災士フォローアップ研修@防災センター

1/17(土)は防災センター(学芸大学 徒歩10分)で、目黒区役所の防災課が主催する防災士フォローアップ研修講座。



最前列を確保!

最も勉強になったと感じたのは、弁護士の中野明安氏から災害対策基本法についての講義。水害や震災で被災した場合は役所への罹災証明の申請のために、家を片付ける前にまず家の写真を撮る必要があるとのこと。区政にどう活かすか、というよりも自分自身や友人・知人が被災した時にとっても役立つような知識でした。詳細はリンク先(QRコード参照)が参考になりそうです。



その他に気象予報士から水害の知識も学びました。今回の研修で得た知識は、役所で今進めている対策がひと段落した頃に活用していきます。



下目黒小、建替えへ

施設更新・公民連携等調査特別委員会

1/23(金)特別委員会で、「下目黒小学校建替え及び複合化の進め方について」の報告。7月から設計作業に着手し、基本設計や実施設計ができるのは来年7月以降。

順調に進んだ場合はR11年からめぐろ学校サポートセンター(第二中跡地)に用意する仮校舎に移り、新校舎に入るのはR15年となる見込みです。

私からは質問を通じ、「小学生だけでなく保育園や幼稚園も含めて、これから通う可能性のあるお子さんの保護者にも知って頂ける方法を考えて欲しい」という要望をお伝えしました。

民営化後の事業者は…

ひもんや・第三ひもんや保育園

1/14(水)文教・子ども委員会の報告はひもんや・第三ひもんや保育園の民営化後の運営事業者について。公募で選ばれたのは埼玉県本庄市の事業者さんでした。



園庭のあるひもんや保育園

保護者からは食育への要望が高かったようですが、本庄市は野菜の生産が非常に盛んな地域(蛇足ですが、となりまちが私の育った深谷市)。都市部での保育園の運営は碑文谷が大久保(新宿区)に続く2箇所目となるそう。こども農園や農園テラス、子どもキッチン进行することからも、食育への思い入れが強いことが窺えました。

担当課長さんからは、縦割りの行政にはないアイデアがたくさんあった、とも。

また、脳性麻痺や小児麻痺のお子さんを受入れた経験もある事業者。障害への理解についてもひと安心。人気の園になるかも知れません。



オオゼキ前の第三ひもんや

あとかき&近況報告

議会の繁忙期のひとつを終え、ホッとひと息。気付けば桜も咲き始め、暖かくなってきました。区立中学校や小学校では卒業式や入学式が行われる時期。私も来賓として出席し、先生方や子どもたちの表情に、様々なドラマを垣間見させて頂きました。

また、区議会の任期は来年4月まで。残り1年ほどとなりました。再選した補欠選挙からの2年間を振り返りながら、この1年で何を成すか考えておきたいと思っています。



中央中の卒業生は20期目



キャベツひと玉の値段に敏感であいたい

目黒区議会議員 橋本しょうへい 区政レポート

Vol. 35 2026.3.26発行



〒153-8573 目黒区上目黒2-19-15 5階 立憲民主・目黒フォーラム教室 Tel 080-5090-2560 Mail info@shohel.tokyo

目黒区議会 第1回定例会



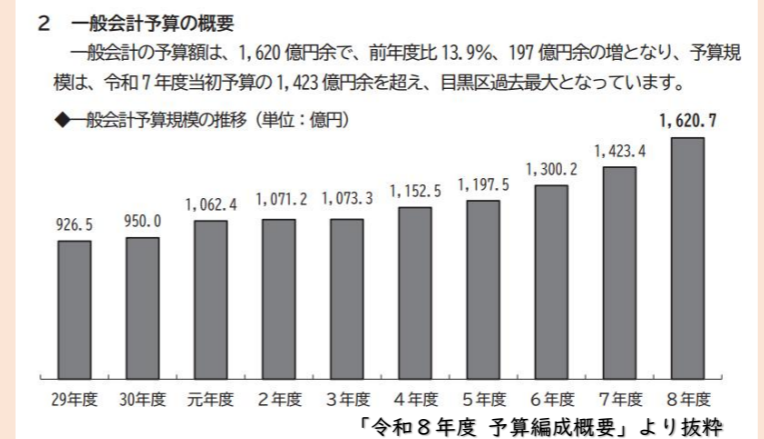
予算案の賛成討論に臨む

2/17(火)に目黒区議会第1回定例会がスタート。今年は議案や陳情の本数も多く、昨年や一昨年よりも少し準備が大変だと感じました(急な解散・総選挙の疲れも一因かもしれません)。

今年は路上喫煙防止を進めるためのポイ捨て防止条例改正や、寄付金の受け皿として「学校教育応援基金条例」「文化財保護基金条例」の新設も。委員会で闊達に質疑が行われ、3/6(金)に可決。議案や陳情への賛否は目黒区議会のホームページでご確認ください。

続いて3/9(月)~17(火)は予算特別委員会で来年度予算案の質疑。23(月)の本会議で可決した一般会計予算は1,620億円と区政史上最大の金額に。私が初当選した7年前は1,000億円に到達した頃だったので、隔世の感があります。私は総括質疑にも臨み、議決の際には会派を代表して本会議での賛成討論も行いました。

なお予算については質問の要旨を裏面に掲載しているほか、質問の様子は目黒区のインターネット議会中継(録画)から



緑道の桜、どう守る？

仲間の議員から、都市環境委員会の報告

もうすぐ桜の季節。目黒川や呑川などの桜の多くは、植えられた時期が昭和40~60年代。



開花期間中の対策費用は1億円超に

2/25(水)には役所に都市環境委員会へ出された報告によると、「幹や根の腐朽が著しく極めて不健全な状態で回復の見込みがないものや、倒木や幹折れの危険があるもの」と判断された桜が急増しています。

前年度までの積み残しも含めると、目黒川緑地で10本、呑川本流緑道で54本など、伐採が必要な桜は区内で合計85本。伐採された後に根が取除きやすくなる(抜根)まで1~2年。植替えた桜が育つにもしばらくかかりますが、後世に目黒区を訪れた方の目を楽しませるよう、大きく育てて欲しいです。



外見は元気そうでも空洞化したもの

子育て拠点開設

子育て交流拠点こもれび@目黒本町

祐天寺や学大周辺からは少し離れていますが、子育て親子の交流拠点(9~14時)や小中高生の居場所(14時半~20時)、学習支援教室「エミール」の月光分室として、目黒本町の平和通りに「こもれび目黒本町」(目黒本町5-33-1)が1/19(月)に開設。

一時保育なども行っており、フラッと訪れたついでに子育ての相談も可能な施設。Vol.34でご紹介した渋谷区のネウボラより小規模ですが、気軽に訪れた施設で相談ができるのはとても良い取り組みだと考えます。スタッフの皆さんの和やかな雰囲気も印象的でした。内覧会では、「橋本さんが一番乗りですよ」と担当課長さん。



平和通り商店街の一角にある

立憲民主党 目黒区議会議員 橋本しょうへい プロフィール

1989(平成元)年6月6日神奈川県生まれ、埼玉県深谷市そだち 埼玉県立熊谷高等学校、明治大学卒(株)ダイエー、手塚よしお秘書を経て2019年初当選、2024年区議補選から2期目。双子の兄弟。
<所属>文教・子ども委員会、議会運営委員会、国民健康保険事業の運営に関する協議会 など
<趣味>空手(和道流、松濤館)、スキー、食べ歩き <特技>手話 <好きな言葉>温厚篤実、一意専心
<好きなもの>りんご、みかん、麻婆豆腐、クラフトビール <尊敬する人物>渋沢栄一、後藤新平

予算特別委員会 質問の要旨

他の自治体では会派の代表者だけが出席するパターンや、所属する委員会に関する部分しか質問できないパターンなど、色々なやり方があるようですが、目黒区議会では議長以外全員が構成員となり、所属する委員会以外のテーマについても質問することができます。私からは、将来世代に何を残せるかという視点も大切に質問を重ねました。



橋本しほへい 委員

01. 総括質疑(区政全般に関わる内容)

①少なからぬ人数の会計年度任用職員が支えているが、国では「雇用年限廃止」や「常勤化」への動きがある。目黒区ではこのような動きに対してどのように考え、対応しているか。



鷹番小は仮設体育館の工事が始まっています

②来年度は学校施設の更新の傍ら、区有施設やインフラの整備についての計画を策定する年になる。入札不調や工事の遅れをどう防ぐか。また長時間労働是正や週休2日の達成、「CCUSレベル別年収」や「雇用に伴う必要経費」などへの対応も必要になる。どう手を打っていくか。

③来年度予算案には大小様々な事業でコンサルタントを活用する機会があるが、役所には様々な知恵やノウハウを持った職員がいるはず。どのような業務で活用するか。また、これからの在り方についてはどのように考えているか。

02. 手話の理解促進・普及啓発事業

昨年は手話言語条例制定やデフリンピック開催。来年度の位置づけは。また手話言語条例では4つの施策を推進するとしている。一定の軽重もあると思うが、区としてどのような意思を持っているか。

03. さんまバス

※実証実験は来年度まで

①地域交通の支援は北部地区でも施行導入する計画があるが、収支比率や利用率といった指標はさんまバスと同様に設けるのか。



共済病院へ向かう、さんまバス

②シルバーパス利用者への割引を導入した場合は収支比率にマイナスの影響があり得る。「実証実験の継続」または「本格運行への移行」を判断するにあたって、収支比率も評価指標として設定する考えは変わっていないか。

04. 経路のバリアフリー化

①「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」によると、おおむね5年ごとに調査、分析及び評価を行うよう努めるべきとのこと。

調査・分析のための費用が予算案に見当たらないが、どのような頻度で行なっているか。



来年度は上目小前の道路でバリアフリー化を進めます

②「五本木一丁目の歩道のバリアフリー化」を進めるにあたって、工事期間中の安全確保についてどう考えているか。

05. 民間建築物の耐震化促進事業

①今年度末に改定される「耐震改修促進計画」では民間建築物の耐震化に対する助成制度について、町会や地域福祉コミュニティを活用した周知に努めるとのこと。試行錯誤を重ねて頂くことも期待しているが、現段階でのアイデアは。

②耐震改修の補助率よりも耐震診断の補助率を上げた方が良いのでは、という意見もパブリックコメントで申し上げた。計画期間の途中でも見直す余地はあるか。

③パンフレットが届いただけでは耐震診断や改修、建替えには至りにくいと考え。職員が足を使って地域住民との連携を図る機会を作れないか。



都の「防災環境向上地区」に指定された祐天寺1丁目。

特別委員会視察

①氷見市・富山県庁

前号では紙幅の関係でご報告できなかった、12/23(火)~24(水)の施設公民・公民連携等調査特別委員会で訪れた氷見市(富山県)や富山県庁の視察のご報告です。



リノベで体育館を役所庁舎に。天井幕、実は光熱費対策らしい。

人口規模5万人ほどの氷見市は庁舎の建設費用を抑えるため、廃校になった県立高校の敷地内にあった2つの体育館と旧校舎の一部を新庁舎に転用。北陸地方では体育館のメインアリーナの下にスペースを設けていることが多く、柱や壁のなく広々とした2フロア分の面積を確保できたことも奏功。人口規模の異なる目黒区でそのまま真似るのは厳しそうですし、既存の建物を他用途に転用することが容易ではないということも実感しましたが、柔軟な発想で財政負担が大きく減る例も目の当たりにした視察でした。



市長室は一部、ガラス張り(丸見え)！

また富山県庁では、民間企業との連携の在り方についてのヒントを得てきました。東京以外のほとんどの自治体では既に右肩下がり財源となっていますが、富山県ではその中で「いかに住民のWell-beingを最大



オレンジ色ではなくサンクさん模様のネクタイ(珍しく紫色)

化するか」という問いと向き合っています。これからは民間と行政との考え方の違いをうまく「翻訳」できる人が必要になること、また行政が仕様書を作ってアウトソースする時代から、共に創る時代が変わっていくのではないかと話も興味深い内容でした。こちらの詳細は視察レポートとして区議会に提出しています。ご興味のある方は目黒区議会のホームページをご覧ください。



森林環境譲与税の使途

協定の締結先、角田市(宮城県)を視察

角田市と島田生産森林組合との協定締結を受け、目黒区議会有志で1/29(木)~30(金)に現地を訪れました。人口や財政規模は目黒区の約1/10ながら、面積は約10倍と広大。江戸時代に荏原郡目黒邑から集団移転した



墓標に、「目黒氏」

方々の末裔が住んでいることから、昭和57年に「お座敷列車」(当時はJRではなく国鉄だった頃!)で目黒区民が訪れたことで角田市との交流が始まったそう。

実際に、対象となる森林の近くには移住した方々のお墓もあります。墓石の前には湯呑茶碗が置かれていました。地元の方々から敬意を持って扱われてきたことが窺えました。

協定書に記載されている目黒区のカーボンオフセット以外に、生産された木材がどのように活かせるのかも尋ねました。しばらく人が入っておらず、大規模な森林火災が数年前に起きたこともあり、木材の清算以前にまずは調査が必要とのこと。



素人目にはわかりませんでした。手入れができて荒廃しているそうです。

財源となる森林環境譲与税の金額があまり大きくないこともあり、目に見える成果が出るまでには息の長い取組みになりそうです。

目黒区の水源地である利根川や荒川、多摩川の上流地域と違って、この地域の森林を保全することで直接のメリットがあまり見込めない気がしたのが正直なところですが、一方で環境学習としての学べる機会はあると思います。

歴史的な経緯にも敬意を払いつつ、この協定が将来に価値を生むように取組んでいこうと思います。



市教委より、墓標について解説する看板も